

## 平成 25 年 年頭のご挨拶

公益社団法人 日本工学会 会長 柘植 綾夫

平成 25 年が始まりました。経済、財政、社会保障及び教育という国創りの 4 大要素の面で大きな課題を持つ日本の再生に向け、新政権は財政再建と経済成長、そしてその基盤となる科学技術振興と教育振興政策の強化を打ち出そうとしております。持続的・社会的・経済的発展と、水と食料を含めた地球環境・エネルギー問題解決に必須であるイノベーション実現に向けた世界の大きな潮流に鑑みて、日本の再生に向けて残された時間は極めて少ないとの危機感の共有が必要と考えます。

日本再生に必須の様々なイノベーションにおいて、科学技術革新を社会経済的価値に具現化する科学技術駆動型イノベーション創出は、資源の乏しい日本にとって極めて重要な要素であり、その創出能力を支える工学と技術人材の育成は 21 世紀の日本の再生にとって要と言えましょう。

一方では、東日本大震災と福島原発事故によって、社会からの工学と技術者への信頼は低下して、この復元無くして科学技術駆動型イノベーションは社会からの受容を得られない危機的状況にあるとの認識も必要であります。

科学技術革新を基盤として、社会と世界にとって価値あるものを創造する使命を持つ工学の原点に立ち、私たち技術者、研究者、教育者及び経営者は、以上の現状の認識と危機感を新たにして新年をスタートしたいと思います。

日本工学会も 99 の会員学協会と呼応して、上記の社会的使命の発揮の一層の向上に向け、政府への提言はじめ各種のプロジェクト活動、会長懇談会と公開シンポジウム開催を通じた社会への発信等の活動を、継続的に強化していきます。また、2015 年京都で開催する第 5 回世界工学会議 (WECC2015) の社会的、産業的意義と国策的意義に鑑みて、その質の充実と成功に向けての準備活動も本格化させます。

日本工学会の会員学協会・団体と維持会員、並びにそれを構成する 60 万人の工学者、技術者、経営者の皆様におかれては、“工学の社会的使命と日本の再生”に向けたそれぞれの社会的使命を発揮されるとともに、以前にもまして日本工学会の社会的使命の発揮に参加・貢献をしていただく様、お願い申し上げます。

平成 25 年 1 月